

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100302
法人名	佐藤循環器科内科
事業所名	グループホーム朝生田の里
所在地	愛媛県松山市朝生田町4丁目10-25
自己評価作成日	平成24年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMAGS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、利用者のほとんどが透析患者の為、食事・水分・運動制限のある生活をしていません。そのような生活の中から日々の楽しみを見つけられるよう、また少しでも多くの利用者の笑顔が見れるように月別や毎日曜日のレクリエーションには力を入れて取り組んでいます。そしてコミュニケーションを多く持ち、職員が寄り添い家族と共に支えながら地域の中で安心して最期まで過ごして頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- ほとんどの利用者が、透析治療を必要とする方であり、母体病院をかかりつけ医とされ、週3回、透析治療をされている。事業所への入居が決まると、1度母体病院に入院していただき、スクリーニング検査を受けて、隠れた疾病がないか等の検査をされている。母体病院からは、2週間に1度、往診がある。透析治療や受診・往診・リハビリは、屋根つきの通路を通して、事業所と病院を行き来されている。他の医療機関の受診は、基本的にご家族が付き添われるが、ご家族からの依頼があれば、1時間当たり1,000円で職員が同行するシステムになっている。
- 透析治療のない日は、できるだけ散歩や日光浴ができるように支援されている。四季折々の花を見に行かれたり、ドライブをして、食事をすることもある。利用者の誕生日は、「ご本人の希望が叶えられる日」として、行きたい場所のある方は、職員と1対1で外出されている。海を見に行かれたり、好きな店の蕎麦を食べに行かれた方もある。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と散歩に出かける利用者の様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム朝生田の里

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 三橋 幸江

評価完了日 2012 年 6 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 三つの理念を掲げ職員間で共有している。特に「地域との密着」を課題にあげ、地域とのふれ合いを大切にしている。	
			(外部評価) 事業所は、「尊厳の保持・自立支援・地域との密着」という3つの理念を掲げて、特に、「地域との密着」に力を入れ取り組まれている。利用者は、職員とともに地域行事等に参加されたり、法人全体で行なう「夏祭り」は、地域の方々も利用者とともに楽しめるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の運動会や夏祭り、敬老会の行事には、利用者が勧んで参加できるよう職員が支援している。また、施設が毎年主催している夏祭りにも地域の方々がたくさん来て下さり、地域との交流を深めている。	
			(外部評価) 地域の運動会や夏祭り、又、敬老会時には案内をいただき、利用者は職員と一緒に参加されている。毎年恒例となっている法人の「夏祭り」時には、婦人会の方と一緒に、利用者や職員も盆踊りを踊られた。又、系列施設「えひめ文化健康センター」の、三線やゴスペル、フラダンス教室等の受講生による披露もあり、地域の方も含め300名ほどの参加があった。夏祭り当日は、にぎやかになるため、法人では、夏祭り前には、近所のお宅をあいさつに回られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で、認知症の人についての理解や支援方法を話したり、個別の事案についても相談にのっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2か月に1回開催している運営推進会議で、グループホームが取り組んでいる事柄・日常生活の様子・近況報告を話し、参加して下さっている方々の意見をお聞きし実践に活かしている。
			(外部評価)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	運営推進会議には、市役所や地域包括支援センターの職員が必ず参加下さり、ケアのアドバイスや相談に乗って頂き協力関係は築けている。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	マニュアルを設置している。また、院内研修でも身体拘束について学び、職員全員が正しく理解をし取り組んでいる。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 院内研修で職員全員が学び理解を深め虐待が起こらないよう努めている。また入浴時には、身体状況の確認を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 院内研修や運営推進会議などで職員全員が学ぶ機会を持ち、成年後見制度が必要と思われる利用者の相談にのれるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に責任者が十分な説明を行い納得して頂いている。ご家族から不安や疑問点などがあれば、その都度十分な説明を行うよう心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各階に御意見箱を設置している。ご家族が面会に来られた時には近況報告をし意見や要望を聞かせて頂いている。利用者、ご家族の意見を大切にしている。 (外部評価) 年4回、行事等、利用者の表情がわかる写真を載せた「朝生田の里新聞」を発行されている。ご家族の来訪時には、ご本人用の物品やおこずかいで購入したもののレシートをお見せして報告されている。又、ご家族から「職員の〇〇さんの顔が見えませんが・・・」等と尋ねられた時には、退職したこと等を伝えたり、管理者の交代や新人職員は、直接あいさつをされている。行事時は、ご家族にも案内をされており、お花見の際には、8組ほどの参加があり、ご家族と手をつないで歩く姿も見られたようだ。ご家族の中には、いろいろな行事の案内を楽しみにされている方もある。	ご家族も、利用者の暮らしをともに支えるケアパートナーとして、一緒に活動する機会やケアや認知症について一緒に勉強できるような機会を作ってはどうか。さらに、利用者の状態等のこともあって、ご家族は「お世話になっている」という思いから、意見や要望を言い出しにくいような方もあるのではないだろうか。今後もさらに、ご家族が意見や要望を出しやすいような雰囲気や機会作りの工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングやカンファレンスの時に職員からの意見を聞く機会を持ち意見を反映させている。	
			(外部評価)	
			日曜日は、「レクリエーションを行う日」と決めて、職員は利用者と相談しながら活動されている。利用者から「たこ焼きが食べたい」という希望がある時には、おやつに、たこ焼きを焼いたり、季節に応じて、職員から「花壇や菜園の植え替えをしよう」と提案して、利用者と一緒に土に肥料を混ぜたり、苗を植えたりされている。職員は、今後、歌や体操等をもっと採り入れて、「室内レクリエーションを充実させたい」と話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年末に研修参加や学会発表などの報告書を提出し、日頃の勤務状況、仕事への取り組みなどを査定して賞与に反映されている。	
			(自己評価)	
			昨年度は、院内研修を積極的に行い職員全員が学ぶ機会を持てるよう確保している。外部研修への参加もPCや書面で促し個々で勤んで参加するよう喚起している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			昨年度は、院内研修を積極的に行い職員全員が学ぶ機会を持てるよう確保している。外部研修への参加もPCや書面で促し個々で勤んで参加するよう喚起している。	
			(自己評価)	
			地域密着型サービス協会や市や県が主催の研修に参加して他の施設の職員と交流する機会を持ちネットワークを広げ、サービスの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会や市や県が主催の研修に参加して他の施設の職員と交流する機会を持ちネットワークを広げ、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居時には、環境に早く慣れて頂けるよう声かけや傾聴を十分に行い、信頼関係が築け安心して生活できるよう関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時に家族の意見や要望をお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望をお聞きし、職員全員でカンファレンスを行い話し合っケアプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人のペースに合わせ、寄り添う事で一緒に生活していると思えるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事参加や面会をお願いしたり、遠方であり来られない御家族には近況報告の電話をしたり手紙を書いて家族との絆を大切にしている。また病院受診時には、家族に連絡を取り付き添いの協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人、親戚の方などが訪ねて来やすい雰囲気作りに努めている。また個々の希望に沿って行きたい場所にもお連れするよう支援している。 (外部評価) 事業所では、「ケアの部分は事業所で、楽しみごととはご家族と一緒に」と考え支援されている。お墓参りの希望は、「ご家族とふれ合う機会」と捉えて、ご家族に伝えて実現できるようサポートされている。利用者は、透析治療の必要な方が住民票を移す等して、県内各地から入居されており、馴染みの場所が遠いため出かけることに難しさもあるようだ。事業所に知人が訪ねて来てくださったり、ご家族や友人と手紙のやりとりをする方のサポートをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士の関係を把握し、職員が時には仲介役になるなどして利用者同士の良好な関係が持続するよう努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	他施設に変わられた方や退去された家族から手紙や電話を頂いたりして、これまでの関係を大事にし相談にも応じている。
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日常の会話の中から本人の暮らし方、希望や意向を把握し個々の希望に添えるよう努めている。
			(外部評価)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	入居時に家族から生活歴をお聞きしている。また日常の会話からも生活歴や生活環境の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	日常生活を良く観察し、心身状態の変化や現状の把握に努めている。またミーティングやカンファレンスで職員間の情報の共有を行っている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月1回職員が全員参加でカンファレンスを行い利用者の情報を共有している。必要に応じて医師・看護師・栄養士・PTなどに助言を貰い、本人や家族の希望に添えるようケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 基本的に、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをされている。ご家族の意向等については、来訪時や電話で聞くようにされている。利用者ご本人とよく外出されるご家族が、「最近、物忘れが多いのが気になる」等と言われたことから、ご家族の思いを汲み取り、ご本人がご家族と外出したことを思い出せるよう、「パンフレットや入場券をメモ帳に貼る」ことを支援内容に採り入れられた。職員は、時々、メモ帳をお見せしながら思い出話をされている。希望を表わしにくい状態にある利用者の方は、日々の表情からは、「少しずつ話せるようになりたい」という思いや意向を汲み取り、職員からの「ゆっくり話しかけると返答がある」という気付きを支援内容に採り入れて取り組まれていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケース記録に記入したり、PCの日誌などに入力して職員間で情報を共有しながら皆が統一したケアが行えるよう実践やケアプランの見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療の連携体制を活かし状況や個々の要望に応じて個別の対応が行えるような体制を取っている。状況の変化があった時には、職員間で方針の変更についての対応を話し合っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 出来る限り地域資源を活用出来るよう、また本人の希望に沿って外出の楽しみや活動の幅を広げられるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 離接している母体病院の主治医により定期的に診察を受けている。本人、家族の希望があればかかりつけ医に受診出来るよう主治医が紹介状を書き、適切な医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、透析治療を必要とする方であり、母体病院をかかりつけ医とされ、週3回、透析治療をされている。事業所への入居が決まると、1度母体病院に入院していただき、スクリーニング検査を受けて、隠れた疾病がないか等の検査をされている。母体病院からは、2週間に1度、往診がある。透析治療や受診・往診・リハビリは、屋根つきの通路を通過して、事業所と病院を行き来されている。他の医療機関の受診は、基本にご家族が付き添われるが、ご家族からの依頼があれば、1時間当たり1,000円で職員が同行するシステムになっている。歯科診療が必要な場合は、訪問診療で診てもらっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 離接の母体病院の看護師に体調の変化があれば相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入退院時に医療情報提供書を頂いて情報の共有をスムーズに行っている。また早期に退院出来るよう病院関係者とも関係作りを行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に説明を行っており、看取りについての指針がある。病状が悪化している時は、主治医と家族が話し合いが持てるよう支援している。また本人・家族の希望に添えるようチームで支援している。</p> <p>(外部評価) 入居時に、事業所における「看取りに関する指針」にそって、事業所としてできることを説明されているが、透析治療を必要とする方は入院となり、事業所で看取り支援を行う対象となる方は実際には少ない。前回の外部評価のあと、事業所自らが利用者が「どういう最期を迎えたいか」、日常の会話の中から探る取り組みをされた。「食べられなくなったら、チューブは入れたくない」と話された利用者がおられ、ご家族にもその意向を伝えられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 院内研修を行い、職員全員が実践できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防訓練を行っている。民生委員の方の参加をお願いしたが、あいにく行事と重なって参加出来なくなり協力して頂けなかった。	
			(外部評価) 隣接する母体病院と合同で、避難訓練を実施されている。消防署では、「事業所と母体病院はひとつの建物」として考えられており、「出火の想定は病院側から」と指示があって、11月の避難訓練時には、母体病院のリネン庫に昼間放火されたことを想定して行われた。民生委員の方にも参加いただけるようお願いされたが、都合もあって参加には至らなかったようだ。	想定外のことも起こり得ることを踏まえて、事業所からの出火等、災害のいろいろな場面を想定して、避難訓練を重ねていかれてほしい。事業所の特徴を活かして、災害発生時、地域と協力し合えるような体制作りはできないだろうか。運営推進会議等を通じて地域の方達とも話し合ってみてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に「尊厳の保持」を掲げており、利用者のプライバシーを大切に言葉かけや対応には十分配慮するよう心がけている。人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接している。	
			(外部評価) 各居室には電話があり、外線も自由に使用できるようになっている。ご本人あてに電話があった場合には、居室でゆっくりお話できるよう、つないでおられる。又、ご自分で外線を使われる方もある。利用者は、水分制限のある方がほとんどで、自由に飲み物を口にできないことから、職員も利用者の前では飲み物を飲まないよう心遣いをされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の話をよく聞いて、思いや希望に少しでも近づけるように、また自己決定出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服や髪型は、本人の意思や好みを尊重し、個性に合ったおしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食欲がますように彩りや盛り付けを行っている。利用者には、お盆やテーブル拭きなど役割を持ってお手伝いをして頂いている。	
			(外部評価) 朝食は、ユニット毎に職員が利用者の好み等に合わせて作っておられる。昼・夕食は、法人厨房の管理栄養士が立てた献立で調理されたものが届き、事業所で盛り付けるようになっている。調査訪問時は、魚のフライにレモンが添えられてあった。食後、お盆を拭く利用者の様子が見られた。利用者は水分制限があるため、特に夏場は口の渇きを訴えられることもあり、氷片を口に含む等して渇きを紛らわせられるよう支援されている。時には外食されることもあり、利用者の希望で回転ずしに行かれることが多いようだ。年に数回、お花見や忘年会等の時は、「お酒を飲める機会」となっており、好きな方は楽しみにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士がカロリー計算をしてくれている。ほとんどの利用者が透析患者の為、水分管理は十分気をつけて提供している。また、食事一人ひとりの状態に合わせて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアの声かけを行い、ご自分で出来ない人には職員が介助をして施行している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			リハビリや運動、筋力維持を行い一人ひとりの排泄パターンを知りトイレで排泄出来るよう、また排泄の自立が少しでも長く出来るよう支援している。	
			(外部評価)	
			透析治療をされている方は、尿意はあっても自尿のみられない方がほとんどのようである。排便については、下剤で調整されている。なるべくトイレで排泄できるよう、母体病院の理学療法士が週2回来られ、手の力や脚力の維持向上のため、リハビリを受けている方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			透析患者が多い為、予防の為に飲食物を多くとる事は難しく下剤でのコントロールが中心となっている。出来るだけ散歩や運動をして便秘にならないよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			透析日には入浴出来ないが、出来るだけ本人の希望する時間帯に入浴出来るよう支援している。	
			(外部評価)	
			入浴は、透析治療を受けない日の、9時から20時の間で、できるだけ体調のいい希望の時間に入浴できるよう支援されている。シャンプーやボディソープ等は、利用者個々で用意するようになっている。同性介助を希望される方には、声かけも同性職員が行うようにされている。ビニール製の徐圧マットが用意されており、必要な方は浴槽や椅子に敷いて使用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの活動のペースや状況に応じて適宜居室で休息して頂いたり、心地良い入眠が出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬手帳の活用や薬局の薬剤師の協力もあり、薬の目的や副作用についても理解しており職員全員が把握している。利用者の薬は、職員が管理しており病状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で生活歴を知り、本人の得手不得手を把握しその人の長所を活かせる役割を担当して頂いている。また上手に気分転換し楽しく過ごして頂けるよう毎日曜日には、レクリエーションを実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿って散歩や買い物、外食等を行い、外出のレクリエーションも多く取り入れている。また誕生日には、本人の希望を聞いて馴染みの場所や会いたい人に会いに行けるよう支援している。 (外部評価) 透析治療のない日は、できるだけ散歩や日光浴ができるように支援されている。四季折々の花を見に行かれたり、ドライブをして、食事をすることもある。利用者の誕生日は、「ご本人の希望が叶えられる日」として、行きたい場所のある方は、職員と1対1で外出されている。海を見に行かれたり、好きな店の蕎麦を食べに行かれた方もある。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と散歩に出かける利用者の様子がうかがえた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を自己管理出来る人は、本人に管理して頂いている。ご自分で管理出来ない人は、施設が預かり必要に応じていつでも使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族や知人に電話したり手紙やはがきを書けるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 中庭や玄関、ベランダには利用者と一緒に花や野菜を植えて季節感を出している。共用の空間は、利用者にとって居心地のいい場所となるよう清潔に心がけている。掲示板も月ごとに変え季節感のある空間作りとなるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 中庭には、花壇のスペースがあり、季節のお花やきゅうり、ミニトマト等を植えておられる。利用者は、きゅうりが育っているのを見て「夏じゃねえ」と話されることもあるようだ。廊下の一角には、観葉植物を置いておられ、利用者と職員と一緒に水やりをされることもある。居間のみなが集うテーブルから少し離れた場所にソファがあり、昼食後、利用者と職員が並んで座り、和やかに会話する様子が見えられた。壁には、行事の写真等を貼っておられ、ご本人が、「これ私じゃねえ」とご自分を見つげたり、話のきっかけになっている。日曜日以外、週3回、それぞれに決まった曜日に透析治療に行かれるため、昼間に利用者がそろって居間に集うことがないため、日曜日は、「集団レク」の日として、おやつ作り等をされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングの席は、気の合った利用者同士が座れゆったり過ごせるよう配慮している。また廊下には、ソファを置いて一人でも過ごせるよう工夫をしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室には、本人が使っていた家具等を持って来てもらったり、部屋の入り口に暖簾をかけたたりして、住み慣れた家と同じように安心して生活して頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 仏壇やタンス、位牌を持ち込まれている方もいる。ご家族が家族写真を壁に飾ってくださったり、訪問された時には写真をみながら会話をされている。テレビを持ち込んでおられる方には、職員がチャンネル番号とテレビ局名をご本人に分かるように書いて貼っておられた。お気に入りの椅子に座って好きなテレビを見る方もいる。お化粧をされる方の部屋には化粧品が並べられており、調査訪問時、眉の書き方のコツを教えてくださいました。ご自宅から持って来られた戸棚に、思い出の小物を飾っている方もみられた。模様替えがお好きな方は、職員と一緒にベッドの配置を変えたり、3段ボックスを買って整理をされたりしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ自立した生活が送れるよう出来る事は利用者にして頂いている。トイレや居室の看板を設置し安全に生活できるように、その人が行きたい所に行け、わかりやすい空間作りに努めている。</p>	